



“地域のことは地域で考えよう”

2020年8月28日

おきぎん県内景況・速報 2020年7月

◎県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、厳しい状況が続いているものの、一部で復調の動きがみられる

■個人消費

スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。

百貨店売上高は前年同月を下回る。

家電卸出荷額は前年同月を上回り、新車販売台数は下回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。

生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を下回り、観光施設入場者数も下回る。

ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで下回る。

ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回る。

■企業倒産

件数、負債総額ともに前年同月を上回る。

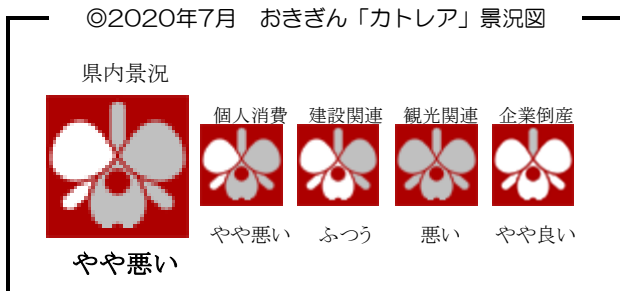
現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2020年7月分)



◎概況：県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により厳しい状況が続いているものの、一部で復調の動きがみられる

7月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月上回りました。百貨店売上高は、前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月上回りました。新車販売台数は前年同月を下回りました。

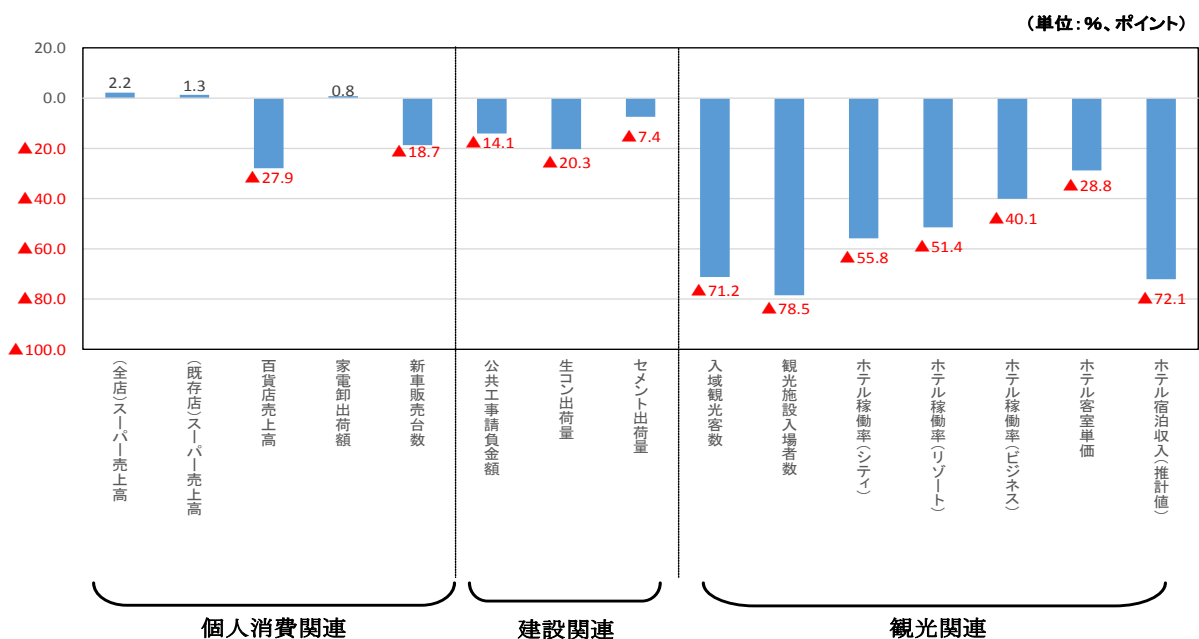
建設関連では、公共工事請負金額は2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を下回りました。

観光関連では、入域観光客数は7ヵ月連続で前年同月を下回り、観光施設入場者数も前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回りました。

このような状況に鑑みて、建設関連は弱含みがみられる中、個人消費は経済政策により持ち直しの動きがみられるものの、観光関連は厳しい状況にあることなどから、「県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により厳しい状況が続いているものの、一部で復調の動きがみられる」と景気判断を据え置きました。

(2020年4月の下方修正から4ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比



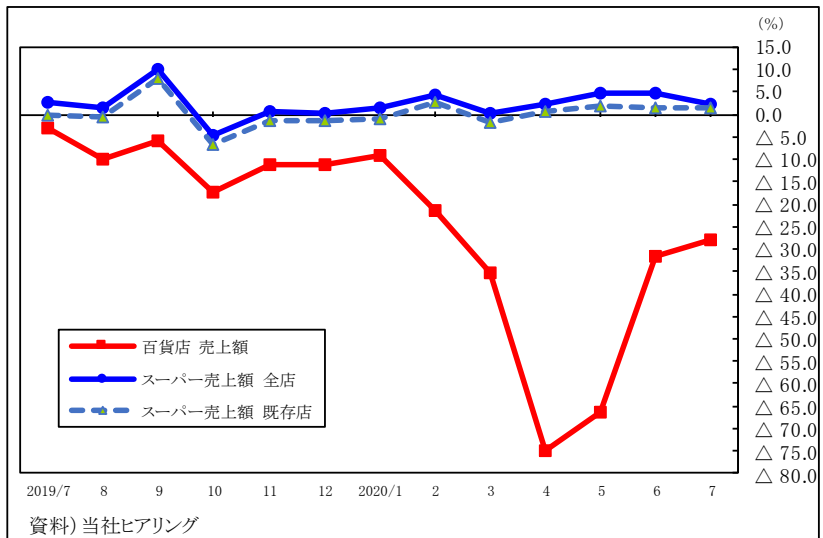


■個人消費： (やや悪い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

単位：％

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2019/7	2.5	△ 0.02	△ 3.1
8	1.3	△ 0.5	△ 10.0
9	10.2	8.1	△ 5.9
10	△ 4.8	△ 6.6	△ 17.2
11	0.5	△ 1.2	△ 11.3
12	0.3	△ 1.5	△ 11.2
2020/1	1.4	△ 0.8	△ 9.3
2	4.5	2.8	△ 21.3
3	0.4	△ 2.0	△ 35.2
4	2.3	0.7	△ 75.1
5	4.6	1.9	△ 66.2
6	4.9	1.6	△ 31.7
7	2.2	1.3	△ 27.9



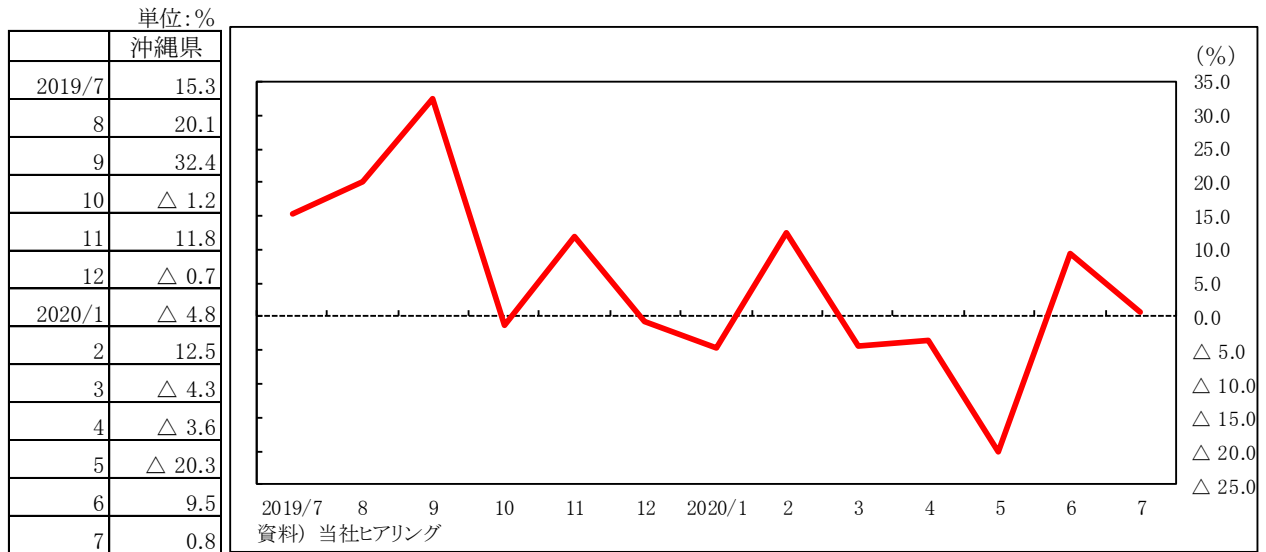
注) 前年同月比

7月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比2.2%増)」は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、「食料品(同2.7%増)」、「家庭用品(同4.1%増)」が伸び、9ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同1.3%増)」は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、「食料品(同1.5%増)」、「家庭用品(同3.4%増)」が伸び、4ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、「衣料品(同7.7%減)」は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大による外出自粛などから客足が伸びず、前年同月を下回りました。一方、ウエイトの高い「食料品(同2.7%増)」は、巣ごもり需要が再び増加し、前年同月を上回りました。「家庭用品(同7.4%増)」は、家電では、新型コロナウイルス感染症の影響拡大以降、家電ではテレワーク等によるパソコンの売り上げが堅調に推移しているほか、ドラッグではマスク等の衛生用品が伸びたことなどから、前年同月を上回りました。

百貨店売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、来店客数が減少し、14ヵ月連続で前年同月を下回りました(同27.9%減)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同23.8%減)」は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により客足が伸びず、前年同月を下回りました。「食料品(同20.4%減)」は、前年に比べ旧盆需要が後ずれしたことなどにより、前年同月を下回りました。靴、化粧品等の「雑貨(同38.6%減)」は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大によりインバウンド需要が大幅に減少し、前年同月を下回りました。

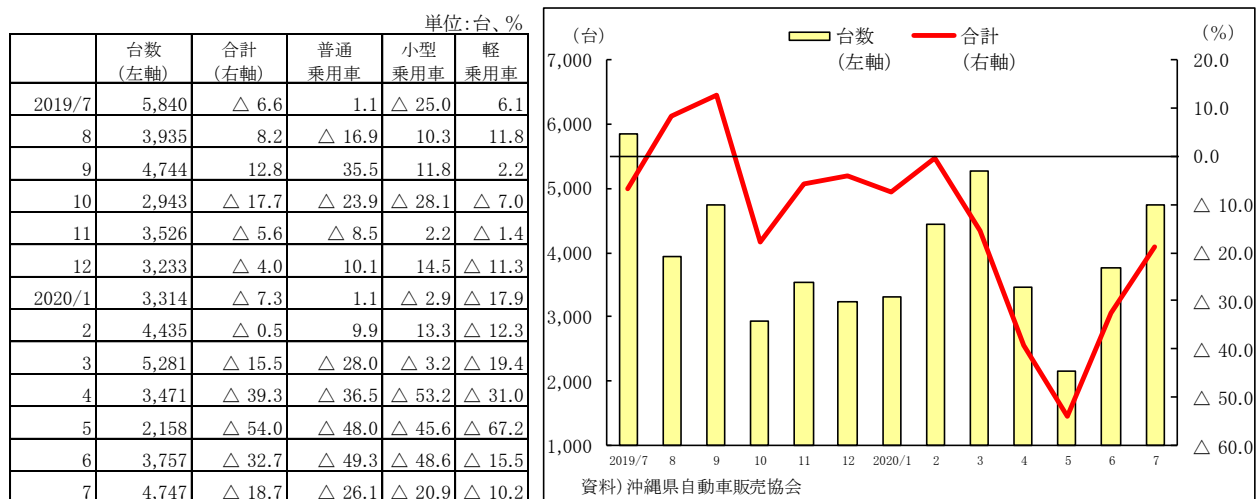
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は2ヵ月連続で前年同月を上回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、白物家電が伸び、2ヵ月連続で前年同月を上回りました(同0.8%増)。品目別では、「テレビ(同23.7%減)」、「VTR(同24.0%減)」は、在庫が不足したことなどから、前年同月を下回りました。一方、「冷蔵庫(同13.9%増)」、「洗濯機(同26.6%増)」は、特別定額給付金の支給による買い替え需要増加などにより、前年同月を上回りました。また、「エアコン(同12.8%増)」は、気温が前年に比べ高く推移したことから、前年同月を上回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、10ヵ月連続で前年同月を下回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

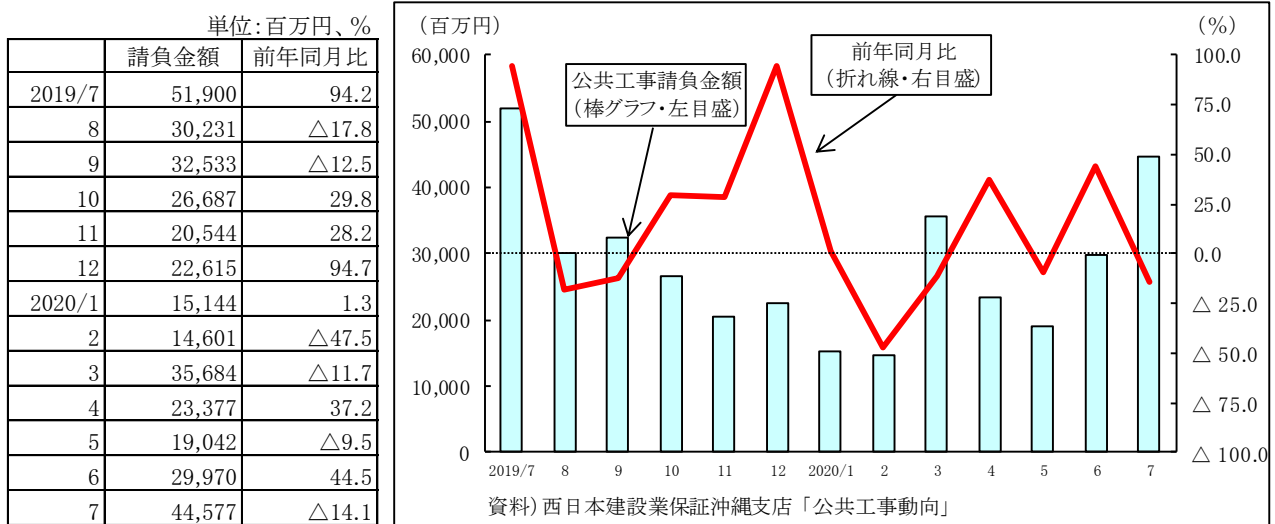
新車販売台数は、全体で4,747台(同18.7%減)となり、10ヵ月連続で前年同月を下回りました。車種別では、「普通乗用車(同26.1%減)」、「軽乗用車(同10.2%減)」は、自家用車需要、レンタカー需要ともに減少し、前年同月を下回りました。「小型乗用車(同20.9%減)」は、自家用車需要は増加したものの、レンタカー需要が減少し、前年同月を下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

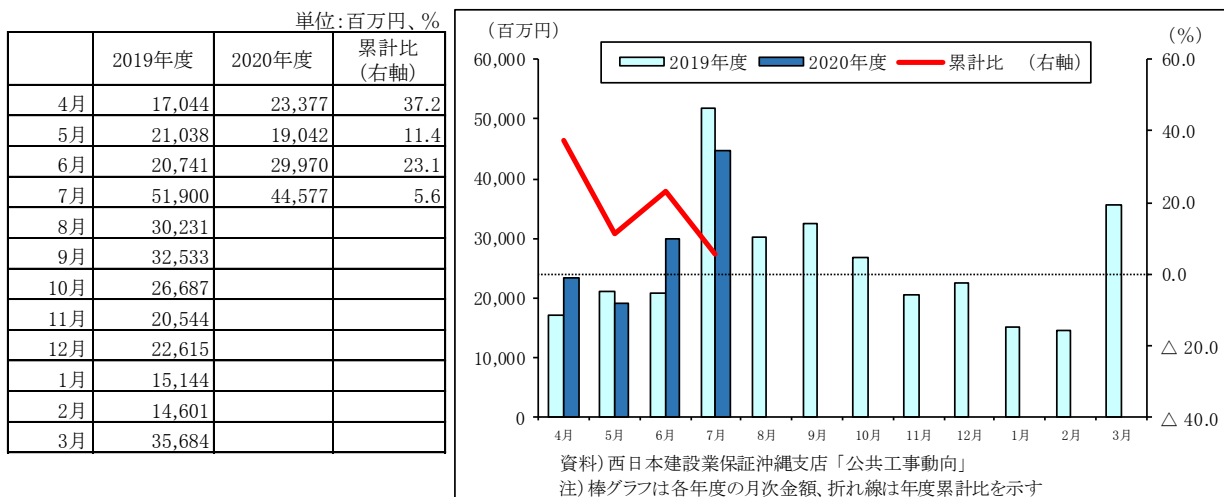


■ 建設関連： (ふつう)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。



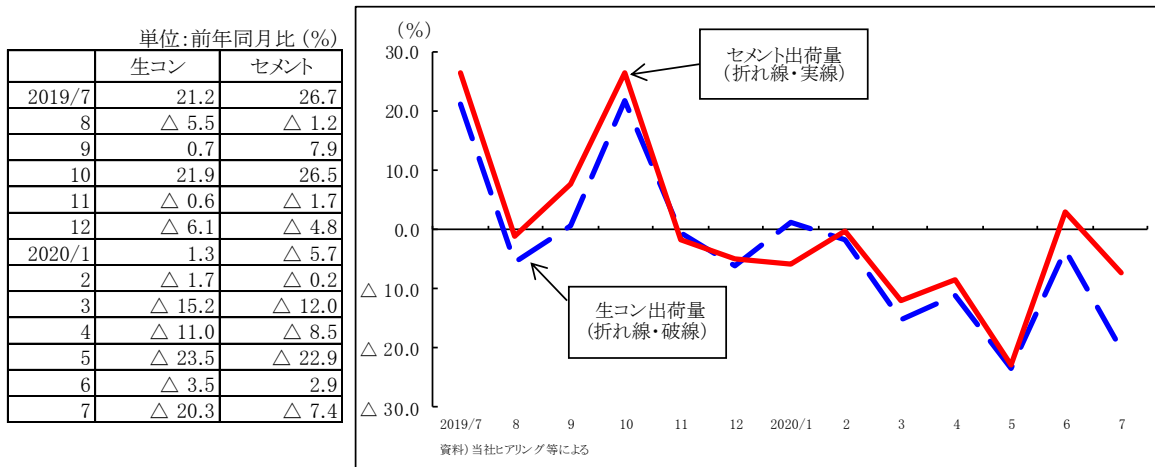
【参考】公共工事（年度累計）・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。



7月の公共工事請負金額は、前年同月比14.1%減の445億7,700万円となりました(2ヵ月ぶり減)。今年度累計値では、5.6%増となっています。

発注者別でみると、「市町村(同63.5%減)」や「独立行政法人等(同91.8%減)」、「その他の公共的団体(同45.4%減)」は前年同月を下回りました。一方、「国(同77.3%増)」や「沖縄県(同32.9%増)」は前年同月を上回りました。

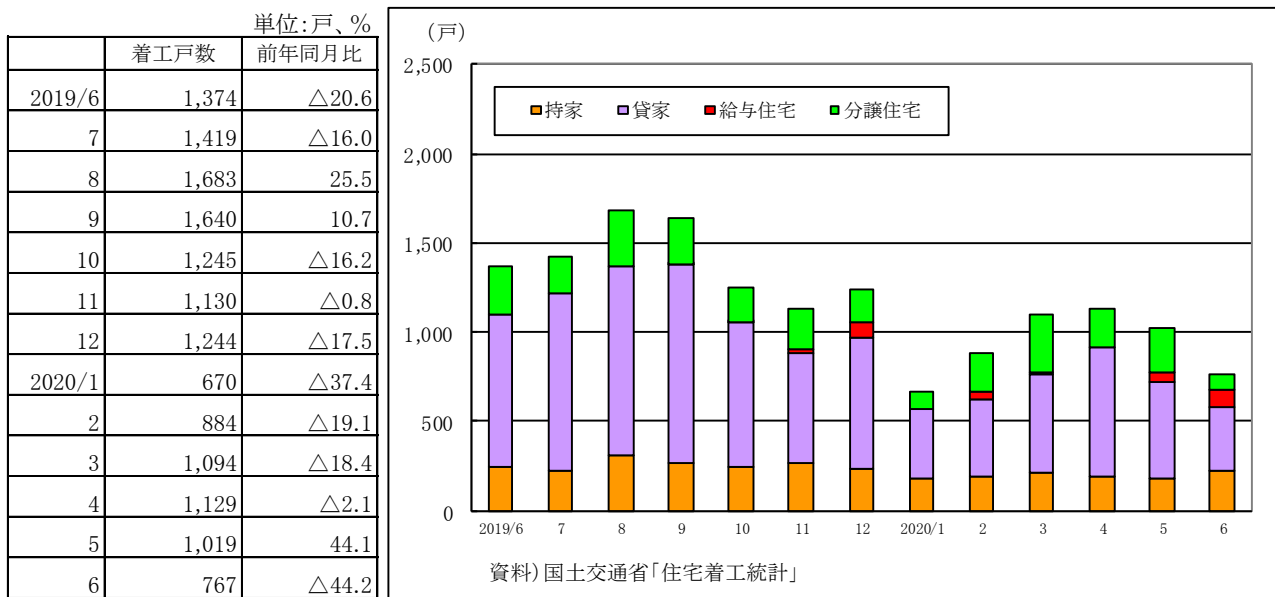
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を下回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

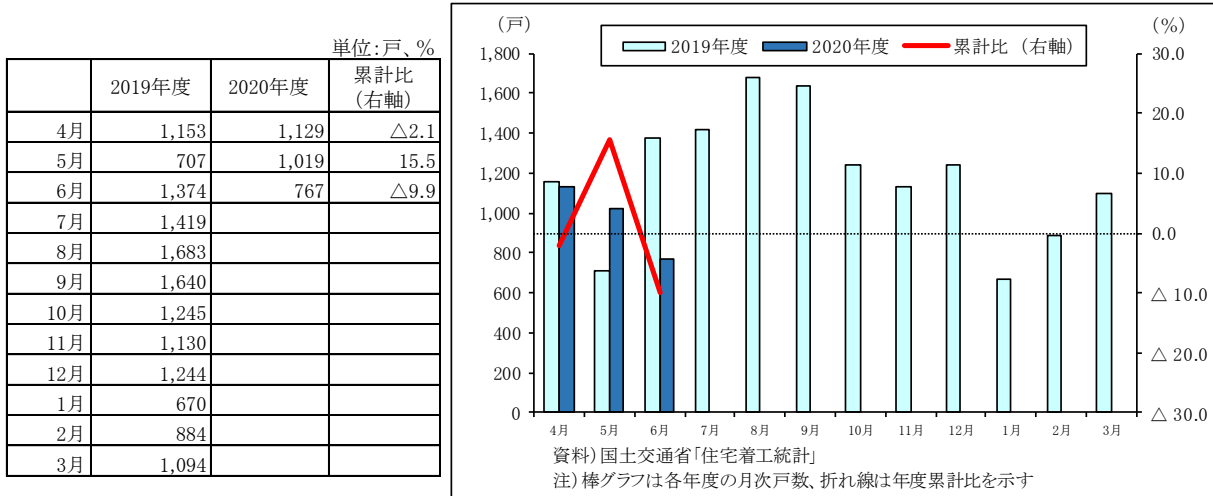
建設資材関連では、生コンの出荷量は20.3%減と6ヵ月連続で前年同月を下回りました。内訳をみると、公共工事向けでは、中南部地区における空港関連や学校関連等への出荷が減少したことなどから前年同月より10.5%下回り、民間工事向けは、中南部地区における住宅関連や医療関連等への出荷が減少したことなどから前年同月より24.8%下回りました。セメント出荷量は7.4%減と2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

③【参考】住宅投資(6月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。



6月の新設住宅着工戸数は、全体で前年同月比44.2%減の767戸となり、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家(同58.6%減)」のほか、「分譲住宅(同65.9%減)」や「持家(同8.4%減)」は前年同月を下回りました。一方、「給与住宅」は前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を下回る。



今年度累計値では、9.9%減となっています。

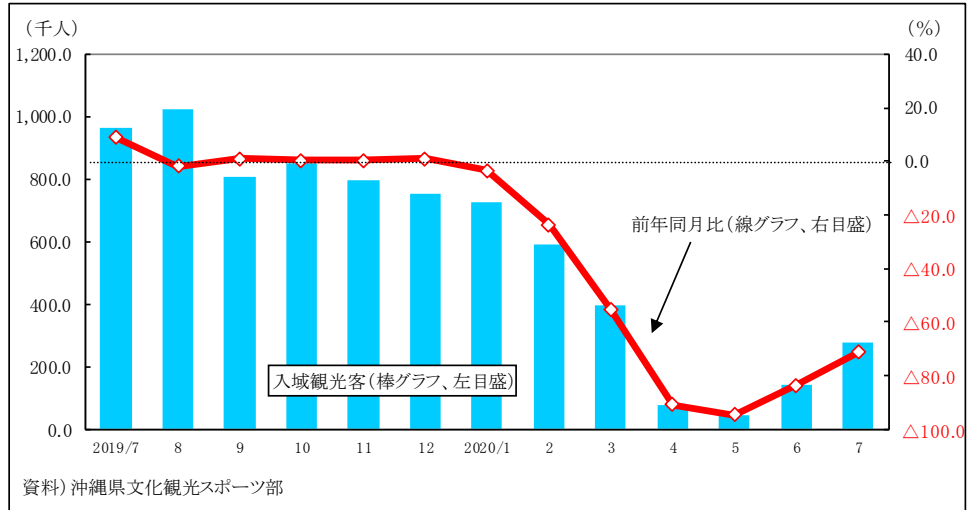


■観光関連： (悪い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・7ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2019/7	963.6	8.8
8	1,021.2	△ 1.9
9	809.3	1.0
10	851.3	0.2
11	799.2	0.5
12	755.1	1.0
2020/1	727.8	△ 3.4
2	590.9	△ 23.5
3	396.3	△ 55.2
4	77.3	△ 90.9
5	44.0	△ 94.7
6	144.1	△ 83.4
7	277.3	△ 71.2

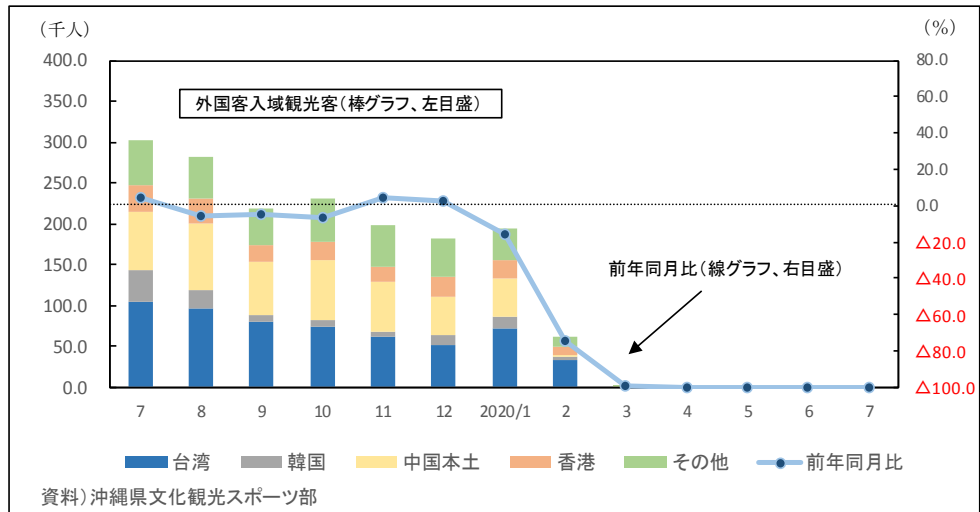
※外国客は乗務員等を含む



外国客 入域観光客数・・・7ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2019/7	302.8	4.1
8	282.9	△ 5.7
9	218.7	△ 5.1
10	230.5	△ 6.5
11	199.1	4.2
12	182.4	2.9
2020/1	193.5	△ 15.8
2	61.0	△ 74.6
3	2.4	△ 98.9
4	0.0	△ 100.0
5	0.0	△ 100.0
6	0.0	△ 100.0
7	0.0	△ 100.0

※外国客は乗務員等を含む



7月の入域観光客数は、686,300人少ない277,300人(前年同月比71.2%減)となり、7ヵ月連続で前年同月を下回りました。

内訳をみると、「国内客(同58.0%減)」は、277,300人と6ヵ月連続で前年同月を下回りました。

Go To トラベルが始まり4連休にも恵まれたものの、航空路線の運休・減便や新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛などから、前年同月を大きく下回りました。

他方、「外国客(同100.0%減)」は、0人となり7ヵ月連続で前年同月を下回りました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、引き続き台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域を対象とした日本への入国制限措置がとれたことなどから、皆減となりました。

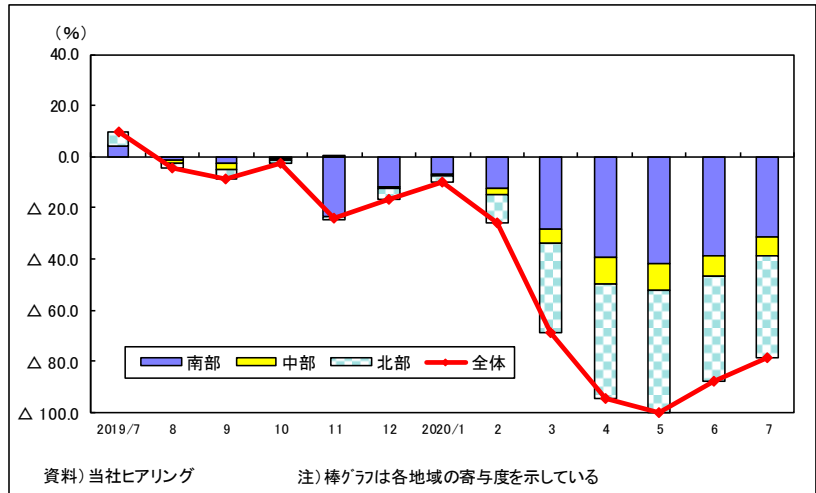
「台湾(同100.0%減)」「韓国(同100.0%減)」「中国本土(同100.0%減)」「香港(同100.0%減)」

※乗務員等を除く2020年7月実績＝全体277,300人(同71.2%減)、外国客0人(同100.0%減)、国内客は変わらない。

② 観光施設入場者数・・・12ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2019/7	9.8	10.8	2.8	10.3
8	△ 4.2	△ 4.1	△ 11.2	△ 3.0
9	△ 8.7	△ 6.3	△ 25.2	△ 7.1
10	△ 2.7	△ 1.5	△ 9.4	△ 2.4
11	△ 24.2	△ 51.7	3.8	△ 3.3
12	△ 16.7	△ 27.7	△ 6.8	△ 8.8
2020/1	△ 10.1	△ 16.4	△ 6.7	△ 5.3
2	△ 25.7	△ 31.6	△ 23.7	△ 21.3
3	△ 68.5	△ 68.8	△ 52.9	△ 71.8
4	△ 94.7	△ 95.6	△ 94.7	△ 93.9
5	△ 99.9	△ 100.0	△ 99.6	△ 99.9
6	△ 87.7	△ 92.4	△ 92.8	△ 82.9
7	△ 78.5	△ 83.9	△ 83.4	△ 74.0



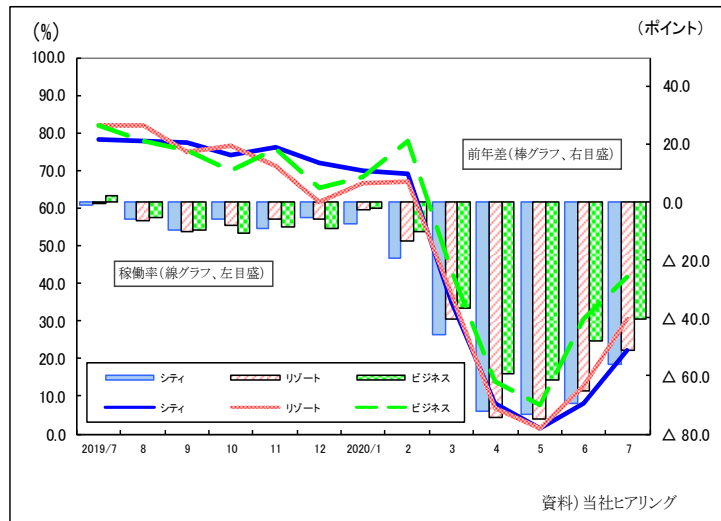
※調査対象施設数＝南部6、中部5、北部4施設
 ※2019年3月より、北部の対象施設数に変更(5⇒4)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。
 ※新型コロナウイルス感染症の影響等をふまえ集計している。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より78.5%減少(12ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同83.9%減と12ヵ月連続、中部は同83.4%減と8ヵ月連続、北部は同74.0%減と12ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

単位: %, ポイント

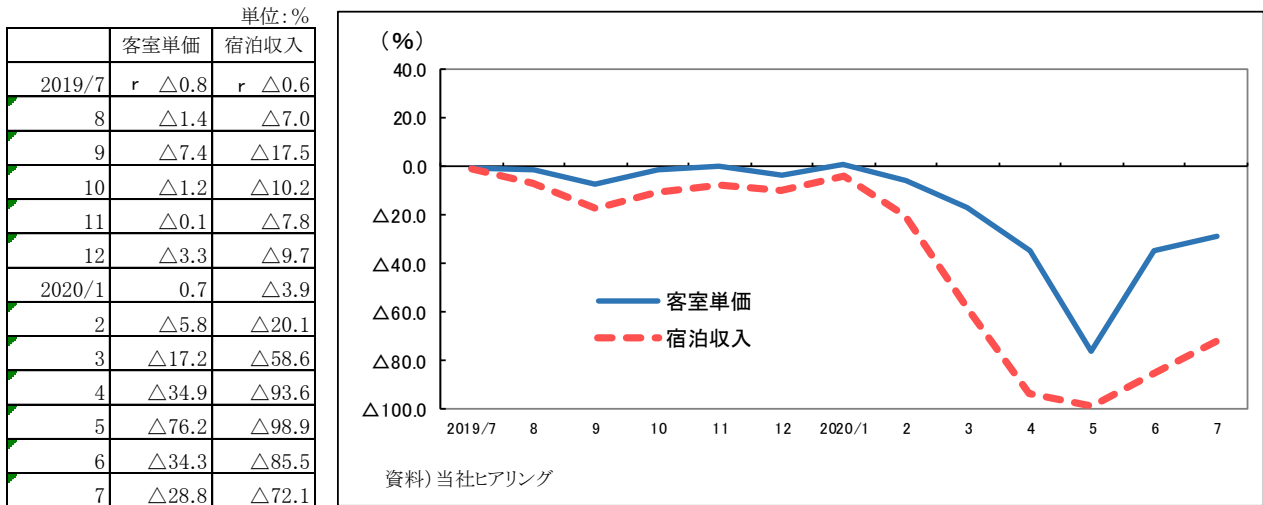
	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2019/7	r 78.2	81.9	81.8	r △ 0.8	△ 0.4	2.3
8	77.8	81.9	77.6	△ 5.6	△ 6.1	△ 5.4
9	77.5	75.0	75.3	△ 9.4	△ 10.4	△ 9.6
10	74.1	76.4	70.0	△ 5.8	△ 8.0	△ 10.5
11	76.3	71.2	75.6	△ 9.1	△ 5.6	△ 8.7
12	72.1	61.8	65.4	△ 5.2	△ 5.9	△ 8.8
2020/1	70.1	66.8	68.1	△ 7.6	△ 2.4	△ 1.9
2	69.1	67.1	77.6	△ 19.1	△ 13.2	△ 10.4
3	34.9	37.3	43.2	△ 46.0	△ 40.1	△ 36.7
4	8.0	6.8	13.9	△ 72.2	△ 74.6	△ 59.5
5	1.3	1.4	7.6	△ 73.1	△ 74.8	△ 61.2
6	8.2	12.8	30.4	△ 69.6	△ 64.9	△ 48.1
7	22.4	30.5	41.7	△ 55.8	△ 51.4	△ 40.1



注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス4ホテル
 注) 2019年11月より、ビジネスホテル対象施設数に変更(6⇒4)となったことから、2018年11月以降の数値を遡って改定した。
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。
 ※新型コロナウイルス感染症の影響等をふまえ集計している。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが22.4%と55.8ポイント減少(13ヵ月連続)、リゾートホテルが30.5%と51.4ポイント減少(14ヵ月連続)、ビジネスホテルが41.7%と40.1ポイント減少(12ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入も下回る。



※対象施設数: 26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く
 ※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。
 ※新型コロナウイルス感染症の影響等をふまえ集計している。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 28.8%減と前年同月を下回りました。**宿泊収入**も同72.1%減と前年同月を下回りました。

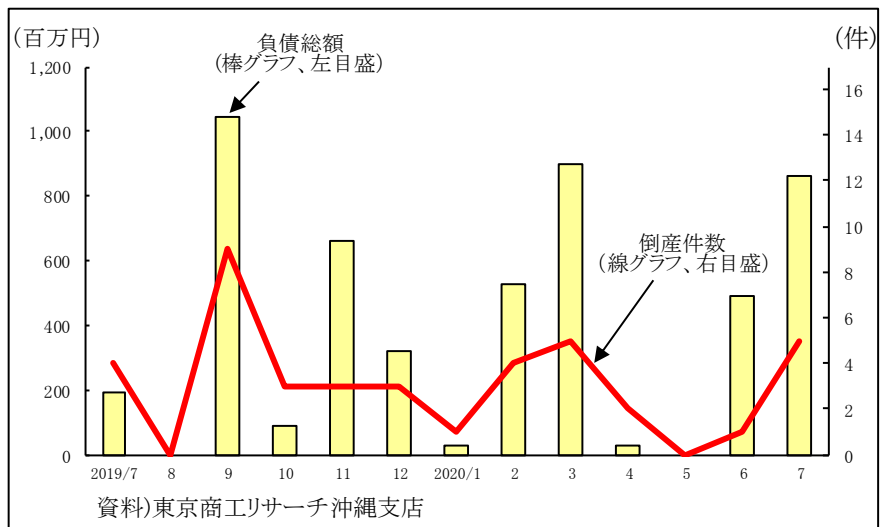


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2019/7	190	4
8	0	0
9	1,045	9
10	86	3
11	660	3
12	318	3
2020/1	30	1
2	530	4
3	897	5
4	30	2
5	0	0
6	490	1
7	862	5



7月の企業倒産件数は、5件(うち大口倒産2件)となり、前年同月より25.0%上回りました。

負債総額は8億6,200万円となり、前年同月より353.7%上回りました。

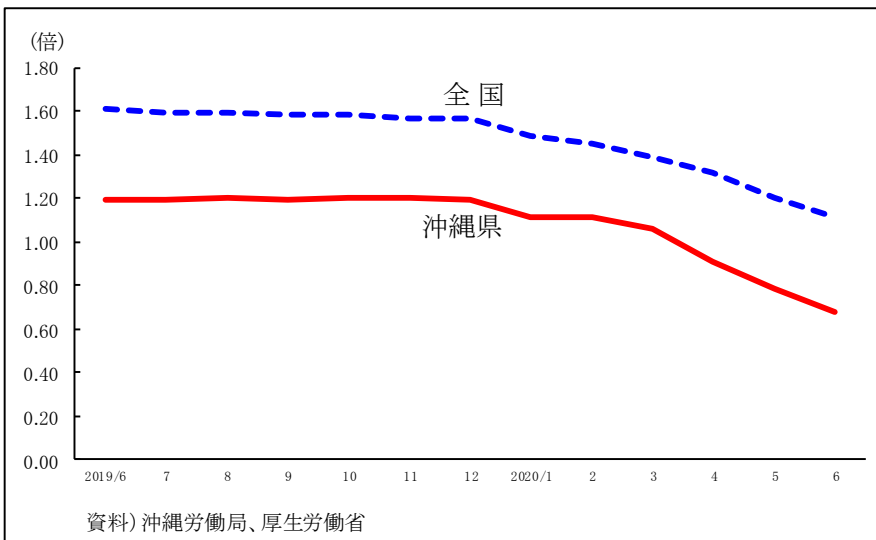


■雇用関連： (やや悪い)

①【参考】有効求人倍率(6月)・・・沖縄、全国はともに前月より低下。

単位:倍

	沖縄県	全国
2019/6	1.19	1.61
7	1.19	1.59
8	1.20	1.59
9	1.19	1.58
10	1.20	1.58
11	1.20	1.57
12	1.19	1.57
2020/1	1.11	1.49
2	1.11	1.45
3	1.06	1.39
4	0.91	1.32
5	0.78	1.20
6	0.68	1.11



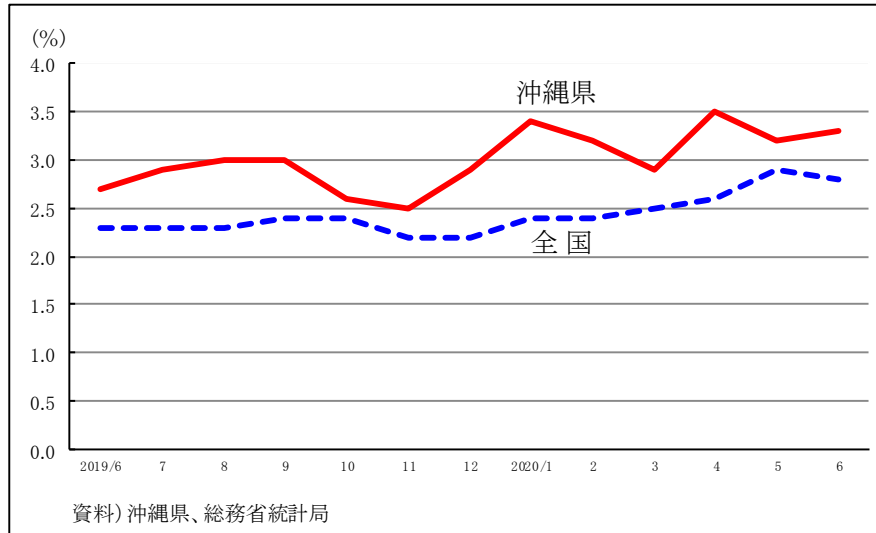
注) 季節調整済

6月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)が前月比7.7%減の18,740人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比5.8%増の27,670人となり、有効求人倍率(季節調整値)は0.68倍と、前月より0.10ポイント低下しました。

②【参考】完全失業率(6月)・・・沖縄は前月より上昇、全国は低下。

単位:%

	沖縄県	全国
2019/6	2.7	2.3
7	2.9	2.3
8	3.0	2.3
9	3.0	2.4
10	2.6	2.4
11	2.5	2.2
12	2.9	2.2
2020/1	3.4	2.4
2	3.2	2.4
3	2.9	2.5
4	3.5	2.6
5	3.2	2.9
6	3.3	2.8



注) 季節調整済

6月の完全失業率(季節調整値)は、3.3%となり前月より0.1ポイント上昇しました。